

現代人の健康づくりを
応援していくために

薬屋さんが野菜栽培



Selection
25

おしどり調剤薬局(有)

代表取締役

宇田 勲氏

Isao Uda

1943年、鳥取県日野町生まれ。高校卒業後、武田薬品工業(株)研究所入社。98年、同社を早期退職し、日野病院の院外処方切り換えに伴い、2000年に調剤薬局を開局。病気になる前の予防の一環として、芽だし野菜(スプラウト)を栽培し、販売している。

Company Data

鳥取県日野郡日野町野田319-5

TEL 0859-72-6090

- 設立 2000年9月
- 資本金 600万円
- 従業員 4名
- 事業内容 処方箋調剤業務
芽だし野菜(スプラウト)の栽培、販売

一生モノの言葉

「野菜は健康の源」

**病気予防、健康維持のために
毎日芽だし野菜を食べましょう**

「スプラウト」の成長を見るのは楽しみです。今の私の健康を支えているのももちろん、スプラウトに他なりません。

来る4年後の社会保険制度の抜本改革を前に、今日の医療は治療医学から予防医学の方向に進みつつあります。製薬会社に行った20年前から、いずれ予防医学の時代が来るだろうことは予想していました。薬局を開局してやがて直面したのは、患者の安易に薬に頼る行動と過剰投薬の現実です。変わらない現代医療への疑問から、病気予防のため、自然食品の摂取で健康を維持すべきと思いつつ始めたとときに出会ったのがスプラウトでした。

スプラウトとは、芽だし野菜のこと。新芽にはミネラル、ビタミンが豊富に含まれ、活性酸素を抑える抗酸化作用があり、免疫力を高めて病気を予防する働きがあります。水耕栽培ではなく、衛生管

理された自社工場の機械で栽培し、現在ブロッコリー、ラディッシュ、ケール、レッドキャベツの4種類を販売しています。特にケールの商品化は日本で唯一。

「薬屋が野菜栽培?」。当初、私の行動を疑問視する声が多くありました。時代の流れが速い現代において、思い立ったら即行動のバイタリティは経営者にとって重要な資質。そのためには足を使い、より多くの情報を求める行動が必要です。生産当時、消費者のスプラウトに対する認識がなく、出荷量も伸び悩みました。「薬屋が?」という既成概念にとられない発想、過剰投薬を抑制し、薬による弊害を未然に防ぎたいとの思いが今、日常の食生活を見直す予防医学的な考え、健康志向の高まりとともに認められ始めた気がします。

栽培機を増設し、生産量は月産1920kgにまで増えました。将来、スーパーの端から端まで薬屋さんのスプラウトで埋めてみたいですね。